



第1巻

[初級1] JLPT N5~N4、
CEFR A1~A2 対応
ISBN 978-4-8234-1216-5
定価 3000 円+税
188 頁 別冊付き



第2巻

[初級2] JLPT N4、
CEFR A2 対応
ISBN 978-4-8234-1217-2
定価 3200 円+税
212 頁 別冊付き

新しい日本語教科書

『日本語 巡り合い』シリーズ [B5判]

初級1・2 発売中

監修
佐々木 瑞枝

執筆
『巡り合い』編集委員会

音源は
ネットで
提供

読解文

日本の携帯電話のサービスは1985年に始まりました。そのとき携帯電話は大きくて重かったです。料金もとても高かったです。使用できる時間も短くて、とても不便だったので、ほとんど使われませんでした。

1990年代後半から携帯電話は一般的になって、使う人も増えました。そして、スマートフォンが登場して、私たちの生活になりました。スマートフォンのことを「スマホ」と言い、ネットを使って、スマホで仕事や勉強ができます。映画や音楽を聴くこともできます。

携帯電話から生まれた新しい文化もあります。絵文字やスタンプ、今では世界中の人が使っています。スマホを使って、使うとき、マナーに気をつけます。日本では、電車の中で、通話をしてはいけません。音楽や動画もイヤホンで聞かなければなりません。「歩きスマホ」(歩きながらスマホを見る)もしてはいけません。

- Q1 日本の携帯電話のサービスが始まったのはいつ頃でしたか。
Q2 携帯電話はいつ頃から一般的になりましたか。
Q3 スマホを使って、何ができますか。
Q4 携帯電話で生まれた新しい文化は何ですか。

「日本語教育参照枠」の示す5つの言語活動を意識して作成された日本語教科書。導入部—マンガの会話を「聞く」、マンガの内容について「話す」、タスク&アクティビティーで「やり取り・発表する」、読解文を読んでタスク&アクティビティーで「書く」で構成。

自宅学習を「復習」から「予習」へと「反転」させ、「自宅で予習し、授業で(アクティブ・ラーニングを取り入れながら)学ぶ」というような「反転授業」に適した教科書。

会話文の場面をマンガで示し、QRコードによって気軽に会話の音声聞くことができ、マンガという視覚表現と音声という聴覚表現に接することによって、学習者はいつでも、世界のどこでも、楽しく、自発的に予習することができる。

予習が
しやすい
マンガ形式の
会話文



試し読み
サンプル
公開中



ひつじ書房

https://www.hituzi.co.jp/meguriai/meguriai_index.html

2026年1月25日（日）開催 講演会のご案内

教科書『日本語 巡り合い』と 日本語教育の参照枠をめぐって

講演 1



西口 光一（大阪大学名誉教授、広島大学特命教授）

日本語の習得と習得支援の諸相と習得支援の実践 ——『日本語 巡り合い』から考える

概要：優れた教材は、日本語という言語の性質を把握し、学習者による日本語の習得と上達を総合的に構想して、習得と上達のために最も有効な経験を学習者に着実に提供することを考えて制作されています。その構想には柱として日本語の習得の経路の予想図があり、その予想図に沿って無理なく学習活動と習得支援の活動が展開されるように巧まれた資材（リソース）が用意されています。そうした教材を学習者が活用し、また教師も授業という空間で学習者といっしょに活用することで全体として有効な習得支援を展開することができます。こうした物の見方を踏まえて、本講演では、『日本語 巡り合い』が日本語という言語の性質をどのように捉え、どのような習得の経路を想定し、各課でどのような資材（リソース）を提供しているかを検討します。そして、期待されている教育実践を「推測」したいと思います。関連で、日本語教育の参照枠の解釈についても言及します。

講演 2



佐々木 瑞枝（『日本語 巡り合い』監修、元横浜国立大学教授、武蔵野大学名誉教授）

『日本語 巡り合い』の作成意図と日本語教育の参照枠

概要：日本語教育の世界が大きな転換点を迎えています。

日本語教師が国家資格となり、2024年4月に施行された日本語教育機関認定法に基づいて、文部大臣が日本語学校を認定日本語教育機関として認定します。この制度は留学生、就労者、生活者それぞれの目的に合わせた日本語教育課程を分野別に審査するものです。

日本語の教科書はこれまで数十年間文型・文法指導、語彙指導などに重点がおかれてきました。しかし今後は日本語教育参照枠に基づき、学習者の習得段階をA1～C2の6段階で示すことで教育内容やカリキュラムをより効果的に設計できるようになりました。『日本語 巡り合い』1はA1～A2レベル対応、2はA2レベルに対応しています。日本語教育参照枠では、「話す」能力を発表型とやり取り（会話・対話）型に分け、5つの言語活動としてとらえます。『日本語 巡り合い』ではこれら5技能の言語活動を意識して各課が構成されています。各課に5技能の「Can do」（学習者が各レベルで日本語を使ってできること）を促す言語活動が盛り込まれています。

2026年1月25日（日）13時～（閉会 15時頃予定）

於 科学技術館 第3会議室

東京都千代田区北の丸公園2番1号

東西線「竹橋」駅より徒歩7分／

東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅より徒歩9分

参加費：1000円（ご来場 or オンライン配信共通）

お申し込み方法：本イベントは、ご来場あるいはオンライン（リアルタイム配信のみ）でご参加いただけるイベントです。どちらの場合も右のQRコードからPeatixにてお申し込みください。必ず事前申し込みをお願いします。



<https://meguri.ai.peatix.com/>



ひつじ書房

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F 株式会社ひつじ書房
TEL: 03-5319-4916 FAX: 03-5319-4917 toiawase@hituzi.co.jp